

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372100275		
法人名	社会福祉法人 ことぶき会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	岡山県岡山市北区御津紙工1410		
自己評価作成日	平成 25 年	9 月	25 日
	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3372100275-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 25 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・それぞれの利用者の個性を大切にし、生活リハの中で「これは自分に出来る」と生き甲斐に繋がることで自己主張が出来るようにしている。
・ご家族の希望である「せめて100歳までふるさとでの生活をさせて欲しい」全スタッフが共有している。
・田園風景に囲まれた屋外でのティータイムや散歩、畑、花壇の朝夕の水やりなど、積極的に行い、地域の方とも交流を図る。
・ご家族の面会も多く、受診、外出、買物などのご家族との協力体制を持っている。
・家族と職員は日常的にこまめな情報交換を行っている。地域の方にも常に施設を開放し、又、地域運営推進会議には多くの方に参加して頂き、情報開示に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした敷地に同法人の特別養護老人ホームなど大きな施設がある横に見た所、普通の民家が建っている。これがグループホームふるさとである。運営する社会福祉法人ことぶき会はこの地域の高齢者福祉の中心となり、利用者の身体的状況に応じて適切なサービスが受けられるような体制が整備されている。そのため、グループホームに住んでいる利用者本人や家族も安心して事業所に任せることができている。畑のお世話をしてくれる地域の方や地元の中学生、小学生との交流会、学校の文化祭への招待など地域との交流も積極的に取り組んでいる。職員が定着しており、チームワークよく声をかけ合い、日々の支援がスムーズに行われている。時には職員が自分の子どもを連れてくるなど親しみやすい家庭的な雰囲気も感じられる。河川が近くにあることもあり、水害対策への検討や地域との協力、年4回の避難訓練など防災意識の高さも感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	情報公開し、毎月行っているスタッフ会議や年2回の自己評価にて理解度の把握を行っている。	理念は事業所ができた時に考えられたもので、事業所の名前の「ふるさと」の文字に合わせたものになっている。理念に基づき、事業所として、個々の職員としての年間目標を作成し、実践に取り組んでいる。新人職員に対して理念を知ってもらうためのプログラムも用意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居希望のご家族、老人クラブ、民生委員、近隣の方も気軽に見学や訪問等があり、さりげなく利用者の方と交流が来ている。	開設11年目であり、地域との繋がりも深くなっている。畑のお世話をしてくれる方や施設見学に来られる方、柿やクリを持って訪ねてくれる方など日頃から交流が多い。地元の小学校や中学校との交流もある。月1回、音楽ボランティアの慰問が恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活リハビリを兼ね、地域の中へ散歩に出かけ、一人暮らしの方や農作業中の方ともふれあいができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所をオープンにした行事、事故報告書、ヒヤリハット、避難訓練、身体拘束、入退院、入退居、待機等報告し、参加者から助言、アドバイスを頂き、現場へ活かしている。	2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター、町内会長、駐在所、家族等の参加がある。内容は事業、行事、外出等の報告に加え、事故や地震対策なども報告し、参加者に意見を頂いている。製薬会社の担当者の協力により認知症の薬についての講習会を開催したこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、包括支援センター、近隣の支援事業所、同業種グループホームとも常に関わり、お互い情報を確保している。	不明な点があれば随時市の担当者に連絡し、質問している。地域包括センターとは同法人内にサブセンターがある為、日頃から交流がある。他のグループホームとも電話で相談するなどやり取りがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ共通認識のもと、全く拘束は行っていない。日中は全て施設はオープンにしている。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、年1回スタッフ会議で勉強会を実施している。昼間は玄関や窓を施錠せず、利用者は自由に出入りすることができる。職員は絶対に身体拘束はしないという信念のもと、危険がない限り利用者の行動を止める事はせず、見守りや付き添うことで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ会議後の勉強会で全スタッフが自覚し、ケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、それをスタッフ全体で共有し、万が一に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明時、家族と管理者、スタッフ一名入り間違い、モレ等ないようにしっかり口頭で説明し、安心感を与えられるよう工夫している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の広報誌や、年2回全家族参加の行事の場で意見や要望を頂き、現場へ反映している。随時見学希望者へも説明している。	年に2回(5月、12月)、行事と共に家族会を開催しており、参加も多い。面会時には利用者の状況を話し、意見や要望を聞いている。また、何かあればすぐに連絡し、報告をしている。毎月の機関誌にて利用者の日頃の様子などを知らせている。散歩や買い物に連れて行ってほしいという要望があり、できるだけ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議の場や介護日誌などに記入し、些細なことでも共有し、即実行へ移している。	毎月のスタッフ会議で職員同士の話し合いの機会を持っている。全ての職員が何らかの発言ができるようにしている。また、年2回の自己評価では自分の意見を記入し直接施設長に伝える機会もある。職員同士の仲がよく、コミュニケーションの多い働きやすい職場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価を元に管理者が評価し、さらに全体会議の場(宇甘川荘)でも評価し、公平な評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育マニュアルに沿って、研修を受けている。スタッフ会議や日常の気づきも本人へ伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネ連絡会などへも参加し、親交を深め、関わりを大切にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と現場スタッフがインテークを行い、ご本人のADL面、思いを把握し、入居初日から困らないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク面接時や入居契約時に生活歴や思いなど、十分に傾聴し、サービスに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接時、入居決定時の情報提供表などあらゆる面を考慮し、プラン立案を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣を把握し、スタッフが同じ目線に立ち、出来ることは一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族とのコミュニケーションを重視し、些細なことでも相談しながら本人にとってより良いケアを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴から本人にとっての心の「ふるさと」の情報を聞き、家族、スタッフ等で実現に努めている。	家族に利用者の生活歴を聞き、本人が暮らしやすいように支援している。家族と一緒にお墓参りに行ったり、女学校時代の友人が訪問してくれたり、お孫さんのお店に食べに行ったりする利用者もいる。事業所が家となり、利用者同士が馴染みの関係を築けるように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も相互扶助ができ、ほのぼのとする光景が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居契約時点で将来的な事も視野にいれ、話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態に合わせて変化をつけながら、その都度、本人にとっての良い方向を模索している。	家族から生活歴や生活環境を聞いたり、本人との日常会話の中から思いや意向をくみとったりしている。特に入浴中は1対1で利用者から様々な思い聞くことができるため、「お風呂ノート」を用意し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活歴、生活環境を反映させ、個々に合わせた生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の生活スタイルを大切にしている。融通をきかせて本人に合わせた食事時間や食事形態、また食事場所での提供にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で本人の思い、家族の意向も把握し、本人に合った生活スタイルを心がけている。	担当職員が情報を聞き、チェック項目に添ってモニタリングを実施している。ケアプランの作成は、家族からの要望をもとにスタッフ会議で意見交換を行い、ケアマネジャーと管理者が行っている。問題点を前面に出すのではなく、利用者にとっていい方向に進めるようなプランになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族面会時やスタッフ会議、毎日のケアの中での気づきは見逃すことなく、全スタッフで共有できるように記録に残し、対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてその都度、全スタッフが各自利用者に合わせたサービスが行えるように共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設などの招待で行事に参加したり、毎月の音楽ボランティア、不定期なボランティア、実習生など様々な地域交流ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なかかりつけ医の受診を行い、主治医と緊急時の対応や内服状況、往診なども適時伝えている。家族の要望等も考慮している。	かかりつけ医には月2回状態報告を行っている。極力毎月の受診を心掛けているが、まれに2ヶ月に1回の場合もある。協力医療機関へは今現在受診の必要性がない。週1回は看護師の訪問によりバイタルチェック等健康管理を行い、何かあればかかりつけ医に連絡している。同敷地内にある特養の看護師に相談する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居時に医療との連携、医療との関わりを説明し、納得して頂く。週1回は看護師が個々に関わり、状態観察をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居時に内科又外科的入院についての説明を交わしている。病院関係にもこちらから連絡を入れて状況の確認を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に将来的な多方面の説明を行う。家族の希望をなるべく尊重した対応を行う。	利用開始時に本人や家族には説明をしているが、今のところ実績はない。同一法人内に特養があるので、入居時に申し込みをすることが多い。最期まで見て欲しいという家族の希望もあるが、医療体制の整備に課題がある。スタッフ会議でターミナルに関する勉強会もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月、定期的な勉強会を持つ、同一母体法人での合同勉強会又各機関での研修等に参加し、その内容を他職員へ報告、共有し、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年各2回、地域法人全体、又ふるさと独自で実施訓練を行う(全員参加) その際、消防署も参加し、研修なども同時に行う。	法人で年2回、事業所で年2回、計4回避難訓練を実施し、防災マニュアルも作成している。河川が近いので水害も想定し訓練もしている。合同の夜間想定訓練には地域の方の参加もあり、近隣の住民のホットラインも整備されている。『自立歩行、意思表示あり』等それぞれの利用者の特徴を記入したシートも用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性、生活歴又人生を積み重ねてきたその人自身を大切にしたい生活が続けられるようにしている。	利用者が部屋で休む時には戸口を閉める、部屋には本人が選んだものを置く、トイレの声かけは十分に配慮する等、生活の中で本人を尊重した支援を行っている。機関誌に利用者の写真を出していいかどうか家族から同意書をもらうなど、個人情報の保護、守秘義務も徹底している。接遇マナーの研修にも若い職員が参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や個性、生活を理解しゆっくりと自己表現ができるように促したり、飲みこんだ言葉の思いを察す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを守り、声かけを行ったり、自発的に利用者同士の会話ができたり、思い思いの時間が過ごせるようにできている。時にはスタッフが入り、仲介などを行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた環境、衣服、物品を用意し、自分なりに服を選んで着用して頂く。特に整容、身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ずしも全員が同時間でないこともある。朝が早い方、ゆっくりの方に合わせた温かいものを出している。利用者にできる調理や盛り付け等をしていただく。	3食共に手作りになっている。利用者もできる事(下ごしらえ、配膳、下膳、洗い物等)に参加し、それぞれに役割を持っている。職員も同じ時間に同じものを食べて、ゆったりとみんなで食事を楽しんでいる。朝食は、本人の起きる時間に合わせて出し、作り置きはなく、その都度出している。新米や野菜、果物など家族からの差し入れもある。	手作りの食事は非常に家庭的ですばらしい内容で、利用者も楽しみにされています。これからも美味しい食事を口から食べて頂くためにも、訪問している歯科衛生士と相談し、嚥下体操など取り入れてみてはいかがでしょうか。検討を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が食材料を準備し、独自のメニュー、利用者の希望を取り入れ、作っている。摂取量の少ない方、偏りのある方には摂取表を作り、確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロアの洗面台又自室内洗面台にて全員行えるようにし、その都度十分な手洗いも行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中、1人以外の方はトイレ使用である。本人の訴えにいつでも使用できたり、状況に応じて誘導を行う。各居室にトイレがあるので、個々に合わせて使いやすいようになっている。	利用者の居室それぞれにトイレ、洗面所があり、プライバシーが守られている。また、お湯もでるので、排泄後の清拭も行っている。排便は食事や水分補給に配慮してできるだけ薬を使用しないケアに努めている。職員同士で声をかけ合うことで排泄状況を把握し、定時ではない利用者に合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食、水分摂取表を個人別にチェックし、十分な摂取量や散歩、睡眠で落ち着いた安心した生活が保てている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はゆったり、ゆっくり出来る環境にし、聞けない昔話など聞ける機会でもある。その都度バイタルチェックとこまめな状態観察で安全、安心した入浴を心がけている。	基本週3回実施している。汗をかく季節や本人の希望があれば毎日入浴することもある。夜間も希望により対応している。1対1でゆったりと時間をとり、いろいろな話をしながら介助している。入浴を拒否される場合も浴槽につかると気持ちよく過ごして頂ける方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の生活パターンに基づき、一日の流れが安心、安全に過ごして頂くことができ、日中から夜間にかけてスムーズな睡眠へ繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携のもと、指示薬を二重、三重のチェック体制をとり、確実な服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、洗濯物干し、たたみ、繕いもの、買物、散歩などその日の気分などもくみ取り、声かけ、実行に移して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域内の散歩、地元のイベントの招待など活発な参加が出来る。また、家族との外出もでき、活性化になっている。	日頃から畑への水やりや近隣の散歩など外にでる機会を作っている。近所の方も顔を覚えてくれており、声をかけてくれる。家族の協力により自宅へ行ったり、食事に出かけたりすることもある。同敷地内にある施設に入居された方の顔を見に一緒に行くこともある。	全員で外出するだけでなく、個別の外出も実施してみてもどうか。車も福祉車両もあるので、誕生日だけでなく、色々な形で実施していただきたいと考えます。また利用者にとってもマンツーマンの外出は心が満たされるものになるのでは、とも考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小グループ単位で、小旅行、買物、食事を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればいつでも電話ができ、またご家族からの電話も変わることができる。年賀状や孫の誕生などのハガキが届く。また、年賀状は、利用者に一言でも書いてもらい送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の外は季節の花や田園風景、手元へは編みかけの手工芸があり、フロアからは笑い声が、利用者同士おしゃべりをする空間が随所にある。	窓も大きく日当たりの良い建物になっている。木造で温かみがある。畳コーナーには掘りごたつや障子があり、和の雰囲気である。毎日の掃除や年1回のワックスがけ等、清潔感がある。また、こまめに換気することでニオイ対策も行っている。ウッドデッキにはいつでも出られるようになっており、洗濯物干しや日向ぼっこ、食事もできるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日、その時の気分で隣の部屋の方を尋ねたり、玄関先の椅子、畳コーナー、テーブルでお茶を楽しむ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や主人と過ごしたアルバム、飼った犬や猫、孫やひい孫の写真など各部屋にあり、いつでも見られるようになっている。	一つ一つの居室のデザインが違っている。入口の扉や窓、電灯など工夫している。また、トイレ、洗面所が各居室に設置されており、プライバシーが守られている。家族や思い出の写真、塗り絵や趣味の作品などを飾り、居心地のよい空間作りを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアで過ごしていても、各部屋を皆さん覚えていて、トイレの声かけにて自分の部屋へ間違えずに帰ることができる。		